

詩 集

スカイダイビング

水野上 命子

大宮詩人叢書

水野上 命子（みずのえ めいこ）

- 東京生まれ
- 埼玉詩話会会員
- 大宮詩人会会員
- 現代詩学習会会員
- 現住所 〒336 浦和市南浦和3-41

水野上命子詩集 **スカイダイビング** 〈大宮詩人叢書20〉

昭和61年8月20日発行

著 者 水野上命子

発行者 宮澤章二

発行所 大宮詩人叢書刊行会

大宮市上小町209（〒330）山崎方
電話 0486-41-2717 振替 東京2-139230

編 集 山崎 馨・広滝 光

制 作 麗文社 大宮市三橋4-122-3
電 話 0486-23-8417

印 刷 中沢印刷株式会社

定価1000円

詩 集

スカイダイビング

水野上 命子

スカイダイビング
目次

落下

寒い日

真冬日

階段

疲れた鳩達

雪の言葉

雑踏の中で

古いセーター

•

花の径

八重樫

芥子

花が散る

春終る

8

9

10

12

14

16

18

20

22

24

25

26

28

青い麦の穂

30

六月の影はブルー

32

雨七夕

34

蠅

36

花火まつり

38

生まれて生きて

40

痛い朝

42

動く歩道

44

在る

46

聞えない会話

48

あとがき

スカイダイビング

落 下

私は スカイダイビングを思う

高度を何千にとろうか

もう何も落すものの無くなった今

思いきり 高い所から一気に落下したい

スカートの裾を重くまつわらせ

鳥にも蝶にもなれない私が 落ちてゆく

そして

何事もなかったように

地上に立って

寒い日

雨もよいの 沈んだ空気の中

廃品回収車のスビーカーの音がよく響く

日々の記憶をたちまち過去形にする新聞紙の山

落ちそうに私達の生活のしぼり滓が

積荷され ゆれながら

「年令を問わず 何か役に立つ人募集」

の広告もおまけに乗せて 廃品回収車が走り抜ける

寒い日

—— 地上のどんなごみも漂いながら

真冬日

部屋の壁にはものの影もなく
私の影も

うつっていない

見せたくない

さびしい背中を日にさらし

掃除 洗濯に

費やした時間が

かすんでいる

貧血したのか

疲れて黒ずむ顔は

どうにもやりきれなくて

血の色よりも 濃い

紅をさし

若やいで ひだの多い服を着て

映らない 愛のかたちを

手鏡に のぞいている

此の先に 何があるのだろう

何を 選んで着替えてゆこうか

ほんものか うそかの 姿のうつつ

なんて 寒い日か 私の

陽のあたる 真冬日

階段

階段を駆け上がることは
ひとつの若さなのか

まだ息が続くと錯覚して
駆け登る

見下ろすと街は

白っぽく 乾いている

少し息がはずんでいるが
駆け登ったことに

満足している私がいる

こんなつまらないことで
私は私を占っている

腕の時計は いらない

真冬日^が動いてゆく

日暮れ^が 近い

疲れた鳩達

灰色のアスファルトの路

建物の間に 夕陽が沈んでゆく

頸をダウンジャケットに

うづめた鳩達は

無口になつて家路をもどる

軒先の借家に

汚れた にぶい羽を

しどけなく動かしながら

季節風に尻込みしている

彼等はたぶん

明日も明後日も此処にいて

風の音を聞くだろう

落日が回りながら

鳩の丸い目に きょうの

名残を滲ませる

疲れた闇が満ちてきて

やがて すべてが

夜の中に落ちてゆき

鳩達の目は もう何も見えない

見えないことで

疲れがいやされ